

証券市場新聞

1 第101号

日経平均株価

2万1457円64銭

▲9円12銭(前日比)

TOPIX

1730.64

▲0.60(前日比)

2017
10/23
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



第2四半期決算本格化へ

電子部品など通期上ブレ期待

3月決算企業の第2四半期決算発表が本格化する。最大のポイントは為替動向で、9月8日に1ドル107円31銭まで円高が進んだ後、現状では112円前後とほぼ第1四半期末である6月末と変わらぬ水準まで弱含んでいる。第1四半期で通期予想を修正しなかった企業も第2四半期では上方修正を行う企業もでてきそう。衆院選挙の終了とともに全般相場は業績相場の色彩を強める可能性が高く、好業績銘柄の緩んだところは仕込みの好機となりそう。

気になる神戸製鋼の影響

正している。同社の第2四



いよいよ決算発表が本格化する

電子部品の代表格「付でルーム」(696)が18年3月期の第2四半期累計(4~9月)連結業績予想を売上高で1870億円から2000億円(前年同期比16.4%増)へ、営業利益を200億円から270億円(同71.0%増)へ上方修正のアドバンテスト(81)や10月25日の村田製作所(69)の10月31日発表予定のルームの好調から注視される。製品不足への対応。増産体制が示されれば、クリスマス商戦での販売期待が高まり、同社の業績のみならず、電子部品メーカーやソフトウェアメーカーへも業績拡大期待が高まりそう。

半期決算発表は11月1日だが、進捗状況から第3四半期以降の動向が明確になれば通期の売上高3680億円(前期比4.5%増)、営業利益380億円(同期比19.4%増)も上ブレ期待が高まりそう。

日経平均日足チャート



航空電子工業(6807)、27日の東京エレクトロン、デバイス(2760)なども注目されそう。電子部品の好調を牽引しているのが任天堂(7974)の家庭用ゲーム機「ニンテンドーSwitch」のヒットだ。同社は30日に決算発表を予定しているが、注視される。製品不足への対応。増産体制が示されれば、クリスマス商戦での販売期待が高まり、同社の業績のみならず、電子部品メーカーやソフトウェアメーカーへも業績拡大期待が高まりそう。

一方、懸念要因はグループ会社へも不適切行為が拡がった神戸製鋼所(5406)の影響。自動車メーカーなど納入先への影響は不透明ながら、リコールなどが具体化すれば、被害額などが気になる。

ショーケースはS高 位置情報ゲームRWG社に投資

16日、週明けの16日、ショーケース・ティーンズ・イービー（390）がストップ高で、東証1部値上がり率トップに立った。子会社でベンチャーキヤピタル事業を行うShowcase Capitalを通じてスマートフォン向けにリアルワールドゲーム（位置情報・ARゲーム）を提供するリアルワールドゲームズ（東京都中央区 RWG社）へ投資すると発表した。RWG社は独自に作成した地図エンジンとロケーション情報管理システムによって、日本で高品質なリアルワールドゲームを提供できる数少ない専門会社。日本のNieman tic（Pokem on GOのアプリ、ツシヤ）を目指し、2017年中に第1弾のゲームのリリースを予定している。

ソフトバンク17年ぶり高値

16日、ソフトバンクグループ（9984）が5日続伸、1万円台に乗せ2000年3月以来、17年ぶりの高値を更新した。日本経済新聞で「傘下で米携帯電話

4位のスマートフォンと、同3位のTモバイルUSを経営統合する方向でTモバイル親会社の独ドイツテレコムと大筋合意した」と報じた。第5世代（5G）時代を見据えて顧客基盤やインフラを広げ、先行する米2強と競う狙いとしており、経営統合で米大手2社を追撃する体制が整う期待が高まった。



騰で高値、石川製作所（6208）や興研（7963）、重松製作所（7980）など防衛関連がこの日も賑わった。韓国で、アメリカと韓国の合同軍事演習が始まり、北朝鮮がこれに強く反発し、挑発行為に踏み切る可能性が報じられて

防衛関連は米韓合同演習

16日、豊和工業（6203）が3連騰で高値、石川製作所（6208）や興研（7963）、重松製作所（7980）など防衛関連がこの日も賑わった。

SKジャパン大幅増益

16日、エスケイジヤパン（7608）がストップ高。18年2月期第2四半期累計の連結決算を発表、売上高は24億4300万円（前年同期比5・1%増）、営業利益は1億4200万円（同39・4%増）と大幅な増益となったことが好感された。「もちもちマスコット」シリーズの増販のほかオリジナルキャラクターの「忠犬もちしば」の物販展開が本格的に始動したことなどから商品採算性が向上している。通期は売上高48億円（前期比4・7%増）、営業利益8000万円（同30・1%減）と従来予想を据え置いた。

記者の視点

短期だけでなく長期投資家の定着を

コラム「潮流」を執筆していただいているマーケットバンクの岡山憲史代表を訪ねた。岡山氏は日本初の資産運用コンテストで優勝、資産運用会社設立後も17年以上にわたり高パフォーマンスを続けている。その画期的な運用手法はNHKの経済特集番組などでも紹介されたが、独自の投資支援システムは「ヘッジファンドなど海外投機資金によるかく乱からいかに顧客資産を守り、安定した利益を確保するかという発想に基づいて構築した」という。

世界で唯一低迷を続けてきた東京市場について「日本は外圧に対して無防備で、特に金融は無知によるところが大きい」と指摘する。20数年来の高値を奪回、新たな上昇局面を迎えた今、デイトレなど短期投資家だけでなく「眠っている投資家を呼び覚まし、再び資産として株式を持ち続ける長期投資家として定着していただくための一助になりたい」と熱く語っていた。

株山券吉

ウェッジHD子会社不正

17日、ウェッジホールディングス（2388）が前日に続いてストップ安。タイル証券取引所が16日から現地子会社のグループ・リース（GL社）の株式の取引を停止したことが引き続き嫌気された。同日取引終了後、GL社は偽計と不正行為の可能性を指摘され、タイ法務省特別捜査局による調査を受けることになり、最高経営責任者が退任したと発表した。

鉄鋼別値上がりトップ

神戸製鋼は資金繰り懸念後退

17日、新日鉄住金(5401)、ジェイエフイー ホールディングス(5411)など鉄鋼株が高い。業種別値上がりランキングでトップに立った。世界鉄鋼協会が18年の世界の鋼材需要は17年の見込み比1・6%増の16億4810万トンと3年連続で増えるとの見通しを発表したことが好感された。中国の需要は横ばいながら、中南米や中東など新興国の



17日、新日鉄住金(5401)、ジェイエフイー(5406)も続騰。16日に開催した投資家向け説明会で当面の資金繰りに懸念がないと説明したことが材料視された。根本的な不安要因が解消されていないが、短期的な買い戻しを誘った。ただ、引けにかけ上げ幅を縮めた。

17日、ネクステージ(3186)が急反落、東証1部値下がり率トップとなった。150万3000株の公募増資と自己株処分による109万7000株の株式売り出し、オーバーアロットメントによる売り出しに伴う上限39万株の第三者割当増資を実施すると発表したことで、希薄化と需給圧迫を警戒した売りが優勢になった。新株発行が最大で発行済み株式数の約9・1%におよぶ。調達資金66億9500万円(手取概算

ネクステージ希薄化

17日、ネクステージ(3186)が急反落、東証1部値下がり率トップとなった。150万3000株の公募増資と自己株処分による109万7000株の株式売り出し、オーバーアロットメントによる売り出しに伴う上限39万株の第三者割当増資を実施すると発表したことで、希薄化と需給圧迫を警戒した売りが優勢になった。新株発行が最大で発行済み株式数の約9・1%におよぶ。調達資金66億9500万円(手取概算

ダイハツデイはS高

17日、ダイハツデイゼル(6023)がストップ高カイ配。16日の取引終了後、2018年3月期の連結業績予想を売上高で630億円から600億円(前期比1・8%増)へ、営業利益で25億円から35億円(同0・1%増)へ、純利益で15億円から24億円(同3・5%増)へ修正、利益の大幅な上方修正を好感した。

為替レートが想定よりも円安で推移したことが寄与している。

大森屋

テレビCMで話題「ノーベル製菓」とのコラボ商品！

梅といえばコレ！男梅ふりかけ&男梅茶漬、登場！

男梅ふりかけ

手塩にかけた心にしみる梅えい味

おすすめポイント

- 濃厚な梅干し本来の旨味がギュッと。
- ガツンとしたしよっぱさで食欲モリモリ。
- 味付きざみのりをたっぷり使用。

男梅茶漬

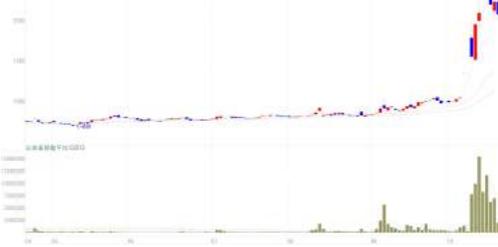
手塩にかけた心にしみる梅えい味

おすすめポイント

- 濃厚な梅干し本来の旨味がギュッと。
- ガツンとしたしよっぱさで食欲モリモリ。
- 大きなあられ入りで香ばしく食感サクサク。

株式会社 大森屋 <http://www.ohmoriya.com/>

豊和工業の日足チャート



防衛関連値崩す

北朝鮮が中国共産党大会に祝電

18日、豊和工業(6203)が東証全市場で値下げ。利率トックに売られたほか、石川製作所(6208)や興研(7963)など防衛関連銘柄が値を崩した。朝鮮労働党中央委員会が中国共産党大会に祝電を送ったと伝わったことで、警戒されていた挑発行動はないとの見方が広がり、短期資金の動きが鈍った。いずれ

も需給要因も絡んでマネーゲームの様相を呈していただけに短期的な過熱警戒感の高まりから、利食い売りがかさんだ。

双信電は再人気化

18日、双信電機(6938)がストップ高。この日から中国共産党の第19回党大会が開催、北朝鮮の動きが注視さ

れるなかで、核兵器を使った電磁パルス攻撃に対抗できる「電磁波シールド材」の関連銘柄として再度人気を集めた。防衛関連では豊和工業(6203)が17日に2876円まで急騰しており、863円の時は単純に値頃感があるとして目先の買いを誘ったようだ。

サンユウ代替需要で思惑

18日、サンユウ

(5697)は3日連続ストップ高に買われ、連日で年初来高値を更新した。

神戸製鋼所(5406)

がアルミ部材のデータを改ざんしていた問題で、新たに鋼線やステンレスも不正行為があったことが判明したこと。冷間圧造用鋼線も扱う同社には代替需要を期待した思惑買いが連日で殺到した。

メドレクス連続S高

18日、メドレクス(4586)が前日に続いてストップ高。16日、米国で「MRX-10XT」の第1相臨床試験を開始したと発表された。同社はオピオイド貼付剤乱用、誤用事故の抑制・防止のため独自の経皮吸収型製剤技術を開発、この技術による安全な疼痛管理を目指す。

明治海政策関連の側面

42億円(前期比28.%)の側面に目を向けられたようだ。18年3月期は連結営業利益

19日、明治海運(9115)が急反発、ストップ高まで買われ、東証1部上場銘柄で値上がり率トップに立った。保育園事業として「くじら保育園」を運営していることから、子育て支援で政策関連の側面に目が向けられたようだ。18年3月期は連結営業利益

神戸鋼は懸念後退

19日、神戸製鋼所(5406)が後場一段高。この日、トヨタ自動車(7203)が同社から購入したアルミ板に関する安全性・耐久性に関する関連法規やトヨタの基準を

満たしていることを確認したと発表、マツダ(7261)も車両の安全性に影響がないことを明らかにしたと伝えられたこと、懸念後退からの買いが活発化した。トヨタでは「今回の問題は、対象が多岐にわたるため、いまだ全容の判明にはいたっていない」とし、現在、「アルミ板以外の素材」の車両への影響について、早急に確認作業を進めているとしている。

調整局面入りを示唆

先週の東京株式市場は6週連続の上昇となりました。10月に入って14連騰と1960年初頭に記録したバクセンレコードに並びました。この間、規模別株価指数を見ると、大型株指数の上昇が圧倒しており4.06%の上昇となりましたが、中型株指数は1.57%、小型株指数は1.83%といった具合で物色に広がりが見られません。また、小型株指数のピークは先週月曜日であり、その後は下落に転じてMACDはデッドクロスしてしまいました。25日騰落レシオは10月17日の138.63%をピークに週末には116.99%まで一気に冷え込んでいます。

株価指数は勢いよく上げていますが、個別銘柄はマチマチの展開であり、投資家心理は冷え込みつつあり、調整局面入りを示唆しています。



日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

長期上昇トレンド継続

年末2万3000円まで上昇も

日経平均の連騰が話題になっているが、売買高や個別株物色の動向に過熱感はない。将来の楽観的見通しを織り込み出したというより、足元の企業業績に対して割安に放置されていた株価がようやくフェアバリュ―に是正されたということであろう。

光世証券

エグゼクティブ・マネージャー

西川 雅博 氏

テクニカル面でも、過去1年間の1万8000円〜2万円のレンジ相場を大きく上抜けた意味は大きい。高値警戒によるスピード調整があっても押しは浅く、長期上昇トレンドは継続すると見ている。日経平均レバレッジETFの信用買残は、9月のピーク715万口から249万口(10/13現在)に急減した。一方、日経平均の下落率に対して2倍の割合で上昇するベア型ETFの日経ダブルインバースの信用買残は、2616万口(同)と1カ月で1000万口以上増加している。上昇過程における国内勢の慎重・弱気姿勢が見て取れ、ショートポジションの積み上がりは、需給面からも上昇相場が容易にピークアウトしないことを示唆している。

9月中旬決算発表にも期待が持てそうだ。バリュエーションで見た場合、現在の日経平均は、2005年以降の予想PERの平均値を直近の利益予想に当てはめた2万0720円を少し上回っている。ただ、ドル円相場や景況感から通期見通しの上方修正の可能性が高く、趨勢的には年末に向けPERの上限である標準偏差+1の2万3000円程度まで上昇があってもおかしくない。個別では業績好調の住友化学(400



相場展望

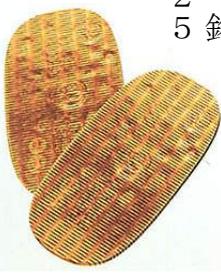
5)、バンダイナムコホールディングス(7832)、出遅れの凸版印刷(7911)、12月決算で高配当利回りのJT(2914)など。

DNA研赤字へ修正

20日、DNA Aチップ研究所(2397)が反落。19日の取引終了後、18年3月期の単体業績予想を売上高で4億9000万円から4億円(前期比23・5%増)へ、営業損益を500万円の黒字から1億2000万円の赤字(前期1億5200万円の赤字)へ、最終損益を300万円の黒字から1億2200万円の赤字(同2億1100万円の赤字)へ下方修正した。診断事業製薬関連大型案件の売上時期が翌期へとずれ込むことが影響する。

正直いさんの大判小判

20日の東京市場は1961年に並ぶ史上最長の連騰記録を達成しました。19日引け後のナイトセッションでは25先物が2万1210円まで急落、オプションでもプットのプレミアムが上昇し、スプレッド調整に備えた動きが見られましたが、20日の日中取引では売展開となつて連騰ながら、騰落レシオが117に低下するなっております。日経平均は開票日が調整ヘイトセッションが必要ですが、柄の押し目買い安川電機(6906)をはじめ好業績・好取組銘柄を探りたいところで、銘柄選別に悩むなら、225先物ミニや225ETF(1320)を調整場面ですら拾ってほしいと思います。花咲翁



Sシャワー音楽フェス好調

20日、スペースシャワーネットワーク(4838)がストッパー高。18年3月期の連結業績予想を営業利益で3億3800万円から5億3500万円(前期比9・0%減)へ上方修正した。音楽フェス好調に推移した。

今週の動意銘柄

ステイバルが過去最大となる約7万人の動員となり、CDパッケージ商品の販売数や、デジタル音楽配信のダウンロード数が想定水準を超え好調に推移した。

潮流

アベノミクス効果はこれから

海外投資家の日本株買い促す

market / bAnk



ルで終えた。遂に終値で初めて2万3000ドルを上回り、過去最高値を更新した。

日本の株式市場も歴史的な上昇記録を達成している。19日の日経平均株価は13日続伸し、2万1448円で終えた。1996年10月18日以来21年ぶりの高値を付けた。13日続伸はバブル期の1988年2月10～27日に並び、実に29年8カ月ぶりの記録である。最も長い日経平均の続伸記録は1960年12月21日～61年1月11日の14日続伸だ。世界景気の回復と日本企業の業績改善への期待が株価を押し上げている。日本株の保有比率を引き上げるため、海外投資家が買いを入れている。コスト削減努力で、日本企業は円安・ドル高に頼らない収益体質になってきたようだ。

米国は株価をつり上げることによって国民の懐を富ませる方針を国策としている。米国の株高政策によって米国を背負う中間層は繁栄と富を享受している。こういう政府の方針であるからいつの世になっても株高が米国繁栄の象徴（シンボル）なのだ。また、アベノミクスによる経済刺激が長期化するという期待が海外投資

米国の株式市場の勢いが止まらない。10月18日のダウ工業株30種平均は2万3157ド

る。日銀の中曾宏副総裁は10月5日のロンドンでの講演で、「日本経済の実情を不必要なまでに『控えめ』に、すなわち悲観的にみるべきではない」と強調した。この

強気の議論の中で示したのが、深刻化する人手不足に対処するための企業の努力が、やがて物価上昇圧力につながるというストーリーだ。人手不足への対応から、企業は省力化投資やビジネスのやり方の見直しなどに努める。それは生産性を改善させて、収益力の向上をもたらす。結果として賃上げ余力が広がり、物価にも上げ圧力がかかるという。

黒田総裁も省力化投資などは短期的には物価に下げ圧力をかけやすいが、ある「臨界点」を超えれば企業が収益改善の果実を労働者と分かち合うようになるという。衆院選で自民党が勝利した暁には、アベノミクスの継続・改善は、「生産性の停滞、賃金上昇の頭打ち、物価の足踏み」の3つが発生する日本のパラダイムからの脱出につながるだろう。

アベノミクス効果による本格的な株高はこれから始まるのである。潮流銘柄は、ネクシィーズ（4346）、オープンドア（3926）、エクセル（7591）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテンツ「第一回S1グラン

プリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

日本的パラダイムから脱出

ネクシィーズの日足チャート



チャートから読む 騰落銘柄

トーセ (4728)



下落基調が続いていたが、50日線で下げ止まる気配。同社が開発を担当しているスマホゲーム「ドラゴンクエスト ライバルズ」は11月2日に決定、ダウンロード数に監視が集まる。

ライクキッズN (6065)



高値保ち合い煮詰まり上放れのタイミング。事業所内保育施設や認可保育園運営で子育て支援の政策テーマに乗り、9月に付けた年初来高値2700円を抜ければ、最高値3810円が目標になる。

ヒラノテクシード (6245)



10月4日に2167円の年初来高値更新後に下落基調が継続。50日線の1830円近辺で下げ止まらなければ、中期的には8月4日の安値1456円が意識されそうだ。

パルGHD (2726)



通期業績計画未達成への警戒感が強く、急落後も反発力は弱い。3000円近辺は累積出来高が多い下値抵抗ゾーンながら、急降下する5日移動平均が上値を抑え、一段安回避へ正念場。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



クラリオン (6796)

自動運転先進技術で注目

クラリオン(6796)は440円前後での揉み合いを続けていたが、全般相場の水準訂正が続くなか動意含みの展開。貸借倍率0・64倍から需給面でも先高を期待したい。日立製作所傘下のカーエレクトロニクス大手で、ナビゲーションから運転支援に絡む分野に軸足を移している。自動車自へは新型リーフ向けに自動駐車用ECU(制御ユニット)とナビシステムをOEM供給、国産車初の本格的な自動駐車システムに同社の技術が貢献している。加えて夜間の視認性を大幅に向上する車載用カラーナイトビジョンカメラを開発、今後の先進運転支援システム(ADAS)の機能として早期の商品化が期待される。

18年3月期は前期比6・6%営業減益予想で、25日の第2四半期決算を見極めて買いのタイミングを図りたい。(と)

第2四半期決算見極め買い



富士通 (6702)

大幅上ぶれの確率高まる

富士通(6702)は18日に年初来高値904・6円をつけてからも底堅く、2Q決算発表へ向けて4ケタを目指す強調展開が期待できそう。18年3月期は大幅上振れの確率が高まってきた。1Qは連結営業利益49億5200万円の黒字(前年同期137億900万円の赤字)に浮上、通期は850億円(前期比57・5%増)と急回復を見込むが、為替前提レートは1ドル105円、1ユーロ115円に変更はない。現在、1ドル112円台、1ユーロ132円台で推移しており、円安が収益を押し上げる。ネットワーク、パソコン、LSIの主要3セグメントがそろって損益を改善、金融費用負担も減少しており、本格的な収益拡大へ態勢が整った。PERは現予想で12倍台と割安感が働き、年間配当を11円(前期9円)への増配も予定。(先)

前提為替レート1ドル105円

高野恭壽の 株式情報 **これでどや!!**



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

ついに、19日に13連騰となりました。すでに、説明のように9月安値からの上昇率、25日移動平均線とのかい離率、上げ日数などを見

た場合について反落してもおかしくない水準にまで達してしまいました。個別銘柄でみると先駆していた半導体、機械、精密、化学などは反落して、出遅れ系のグループを物色して日経平均を押し上げていきました。米国株式が2万3000ドルに乗せたことをみて、19日の相場はつられるようにして更に上げたという調整に入り始

主力に代り材料系活躍へ

材料大きいアンジェス

めた電機などに押し目買いが入って日経平均を押し上げました。しかし、そういう銘柄は戻しても高値を抜けないとみられるために、追いかけるのは避けるべきでしょう。出遅れの鉄鋼、金融系といったグループには勢いがあり、新規買いするのであればそういうグループの中からあくまで拾う作戦を展開すべきだとみています。鉄鋼ではジェイ エフ イー ホールディングス(54101)、または新日鉄住金(5401)の主力を軸に増額修正した合同製鉄(5410)、売られる理由もなく大きく売られた高周波鋼業(5476)は穴株として注目できます。金融系も三井住友フィナンシャルグループ(8316)や高値更新にまだ大きく取り残されている野村ホールディングス(8604)に狙いを定めて買う作戦を続けるべきだと思っています。

こ(6250)もそろそろ出番が近づきました。ラウンドワン(4680)も反発のタイミング。ここからの下値不安が薄いとみられますので、是非、少し拾ってみるべきでしょう。エクセディ(7278)は初動段階によくみられる前日の上げ分がチャラになっていました。3320円を割らなければ、仕切り直して上げていくとみています。アンジェス(4563)は今秋にHGF遺伝子治療薬(重症虚血性疾患治療薬)日本初の遺伝治療薬の製造申請をすると宣言していましたが、まだ、申請していません。材料が大きく申請してから買いに行っても遅いので、今から少しづつ拾う作戦を実行すべきだと思います。

この連騰続きの相場も選挙が終われば一旦、反落するものと思っておりますので、所有する主力株の一部を利益確定することをお勧めします。主力系から材料系の活躍を見込んでいます。それゆえにGSユアサやラウンドワン、やまびこ、合同鉄などを勧めていくわけ

高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

～「あおり運転」～

6月に発生した東名高速での死亡事故により、「あおり運転」に代表される危険運転行為が改めてクローズアップされている。

筆者も過去に、「あおり運転」や追い越しに絡んだ対向車線からの逆走など何度か危険運転に遭遇したことがある。もし相手が車外に出てきて挑発してきた場合など、恐怖に感じた場合には車外に出て交渉せず、110番で警察に通報することが有効だそう。筆者の経験ではディーラーの営業マンに勧められて新車購入時にオプションで装着したドライブレコーダーも威力を発揮した。

最近では自動運転や衝突防止装置などが株式市場でも話題になっているが、自動車のハイテク化が進化しても、人が乗るものだから、未来永劫に事故が無くなることはない。お互いにマナーを守れば、「あおり運転」は無くなるし、仮に事故が発生しても、被害は最小限にとどめられる。

車以外でもAIによる自動売買が株式市場で話題になる時代だが、自動売買でもトラブルは発生する。技術が進化しても自分のことは自分でヤルしかないのだ。



カークリーナー 開封口のデザイン

大阪府警察が実施する車上ねらい被害防犯啓発施策の啓発物に、「モンスターハンター」が採用されたことを発表しました。

今回、大阪府警察と一般社団法人日本損害保険協会が被害防止啓発物として配布する、カークリーナー

カプコン

「モンスターハンター」 「トーリーズ」採用!

大阪府警察上ねらい被害防犯啓発施策

カプコン（9697）は大阪府警察が実施する車上ねらい被害防犯啓発施策の啓発物に、「モンスターハンター」が採用されたことを発表しました。

今回、大阪府警察と一般社団法人日本損害保険協会が被害防止啓発物として配布する、カークリーナー

（車内用）のウェットティッシュ（車内用）に「モンスターハンター」のデザインが採用された。

この啓発物は10月14日に実施された「府下一斉ナインバードプレート盗難防止ネジ無料取付キャンペーン」をはじめ、府下の警察署などで合計3000個の配布が予定されており、大阪府の犯罪抑止活動を支援していく。

低侵襲な乳房再建のための再

日本トリム

生修復治療に向けた共同研究

日本トリム（6788）のグループ会社であるヒューマンライフコードは、学校法人関西医科大学（大阪府枚方市）と、低侵襲な乳房再建のための再生修復治療に向けたヒト脂肪組織由来幹細胞分離用医療機器の開発研究に関する共同研究契約を締結した。

この新しい乳房再建術は、従来の脂肪のみを注入する方法と比較して「脂肪定着の可能性が高く、

子会社が関西医大と契約締結

従来の方法では難しいとされる部分的にくぼんだ乳房の再建にも適用できる」ことから、治療ニーズも高く、主に乳癌の乳房温存手術後の患者のQOL向上に大きく貢献することが期待されている。今回の契約締結により、ヒューマンライフコードは、関西医大との脂肪幹細胞の分子生物学的解析動物を用いた投与方法の更なる検討、細胞移植効果の効率的な解析方法等の共同研究を通じ、関西医大が実施中の新たな低侵襲乳房再建術の確立に向けた取り組みを支援していく。



敏腕先物トレーラー

ハチロクの裏話

年末にかけてさらなる上昇も

2万2750円まで大きな節はない

日経平均は木曜日に1988年2月以来の13連騰となり、2万1500円台に乗せてきた。この間の上昇幅は約1080円、9月8日の安値からは約2260円上昇した。じり高が続くため、利益が乗っけている投資家も静観して売らざるを得ない。買戻しや外国人投資家の買いで上昇している。13連騰もすることは相場が大きく変わってきている証拠である。29年前はバブルの全盛期であり、日経平均もP E Rで約50倍程度まで買われていた。それに比べて現在はP E Rで15倍程度で高感はない。好調な企業業績を考えると年末にかけて更なる上昇もありえるだろう。

次の大きな節目は96年6月の2万2750円まで大きな節はない。チャート的には89年12月29日の3万8957円から2008年の最安値6994円からの半値戻りが2万2976円となる。2万1000円から23000円は累積売買代金が少なく動きやすい価格帯である。しかし、さすがにテクニカル的には過熱感がでており、一旦は日柄的な調整も必要である。メドとしては25日移動平均線の5%乖離水準は(2万1700円)警戒感が強まるところである。下値メドはボリンジャーバンドの△1σ(2万1130円)と(ハチロク)となる。



今週のスケジュール

- 20日 米9月中古住宅販売件数 (23:00)
イエレンFRB議長が講演
- 22日 衆院選投票開票
- 25日 独10月Ifo景況感指数 (17:00)
米9月新築住宅販売件数 (23:00)
- 26日 9月企業向けサービス価格指数 (8:50)
ECB定例理事会(ドラギ総裁会見) (11:00)
米9月中古住宅販売仮契約 (23:00)
- 27日 9月消費者物価指数 (8:30)
米7-9月期GDP (21:30)

読者のみなさまや取材先企業のおかげで弊紙は発行2年弱を経て内容は徐々に充実、サイトへのアクセス件数は1日当たり1万5000件を数えるまでになった。ただ、インターネット上では日々、数え切れない数のサイトが立ち上がり、消えているからかも知れない。信用、信頼されているかという点に関しては程遠い。継続性を問われているわけでも、発刊し続けていることももちろん、歴史の浅さを補うだけの取材に基づき独自の地道な努力と新しい取り組みが必要だと思っただ。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。